



福井高専

青武台だより

令和4年
11月30日発行

No.229

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN),Fukui College



CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P6 ▶ 第57回体育祭

P8 ▶ 第57回高専祭

P12 ▶ 活躍する仲間

P16 ▶ 学校通信

Special Interview

～はじめに～



福井高専『国際寮』竣工に寄せて —世界にはばたく福井高専そして『青武寮』—

寮務主事 原口 治

I. はじめに—各位への深い感謝の念を表しつつ

福井高専の長年の悲願の一つであった学生寮新棟(通称『国際寮』)がこの度竣工しました。解体他の工事は継続中なので通行等にはご注意ください。9月中旬の開寮日より早速運用を開始し、寮生達の新たな生活の場となっています。新しい浴室や食堂、学習室等を利用する寮生達の表情は非常に嬉しそうです。本稿では新棟実現に尽力された関係各位への深い感謝の念を込めつつ、国際寮紹介を通し、福井高専の輝かしい未来に寄与できる学生寮像について皆さんと共に考えることを願います。

II. 高専の「国際寮」とは

福井高専を始めとする全国の国立高専51校を統括する独立行政法人国立高等専門学校機構本部では、国際寮の普及を現在推進しています。国際寮の基本モデルは、寮生7人(個室)で1ユニットの生活空間を構成します。各ユニットでは多国籍の寮生が共同生活を送ることでよりグローバル・マインドを涵養することが可能です。また、料理や語らいが可能な交流スペースや主に留学生向けのバス・シャワー室等がユニット毎に完備されています。交流スペースでは、BS世界のニュース等の視聴も可能であり、日常生活レベルでのグローバルコミュニケーションの機会やその必要性への「気づき」の場となることが今後予想されます。本校では、このユニットが男子に3、女子に2区画それぞれ設置されています。初年度となる今年の国際寮入寮選考では、特に男子ユニットで定員を大幅に超える応募があり、書類審査等を厳正に行い、学年等のバランスも考慮して入寮許可者を決定しました。今年の国際寮居住寮生は、特にこのことを噛み締め、国際寮の発展に意欲的な態度で貢献する必要があります。

III. 福井高専国際寮の誕生まで

全国高専の設備更新の現状を見ますと、老朽化した施

設の改修申請においては、それに十分見合う教育理念や目標の設定が求められます。

高専教育制度において学寮は大きな特徴の一つと言えます。本校学生寮(通称『青武寮』)は、福井高専創設とほぼ軌を一にして半世紀以上、遠方出身を中心にした多数の学生を「寮生」として受け入れ、寮生達の学習環境維持のため衣食住のレベルから強力に支援してきました。とはいえ、建物の老朽化は近年顕著になりました。

青武寮では浴室清掃や点呼当番等の寮運営の役割分担が寮生に求められていますが、大切に使用しつつも、経年劣化による雨漏りや浴室ボイラの突然の故障他、寮生の日常生活に支障も時折生じてきました。当然、建物の改修が切望された所以です。

そのような状況下、本校では4年ほど前から学寮改修計画とその申請作業が具体化しました。現在の田村隆弘校長のもとで、この流れは加速しました。本校の独自の計画案として、機構本部推進の国際寮ユニット、そして老朽化が特に顕著な女子寮及び、寮生食堂、男子浴室、学習室、事務室等をも包含した「混住型学生寮」という壮大な構想で申請することとなり、審査の結果、認可を頂きました。青武寮が福井高専全体のグローバル化にも寄与する有力な一拠点となることが今後求められていると言えます。

IV. 未来の青武寮そして国際寮とは—継承の大切さ—

通学が遠距離かつ、福井高専での勉学に強い意欲を有する学生に、学寮はその門戸を開いています。

本校には重要な教育目標として、「『自律』して『自立』した学生の育成」があります。これは寮生の生活目標と完全に一致します。国際寮運営開始で慌ただしい毎日ですが、開寮直後の浴室清掃を寮生会役員の4年生ら上級生が自主的に実施し、素晴らしい範を垂れてくれました。また、来年2月末に開催予定の国際寮竣工式に向けて、国際寮居住寮生は協働して、国際寮の英語PVの作成計画

Special Interview

～はじめに～

を現在立てています。グローバル化をキーワードに、新しい青武寮を未来に継承することへの模索が、寮生間で既に始まっているのです。

あと数年もすると、福井高専は創設60周年を迎えます。創設時の学校通信に初代寮務主事が寄せた寄稿の一節に、「・・・寮はみんなの力で支え合っている建築物のようなものだった」とあります。先達(卒「寮」生、過去の寮関係教職員他各位)、現在の教職員、保護者各位他の力強いご支援のもとで、今ここに国際寮が屹立しています。この貴重な教育的施設を朽ちさせることのないように、青武寮寮生は未来の寮生に継承することを常に意識し、深

い感謝の念と共に日々の寮生活を送って下さい。

今回の国際寮竣工をきっかけに、『青武寮』は通学生の皆様のご支援も受けつつ、本校グローバル教育推進を中心に、福井高専の発展に寄与していきます。今後どうぞ宜しくお願いいたします。



〈外観〉



〈寮室〉



コロナ終息を願って～そして新しい時代へ～

教育後援会長 大澤 和典

本年度教育後援会会長を拝命致しました大澤と申します。会員の皆様、教職員の皆様には日頃より教育後援会の活動に多大なるご協力・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。歴史と伝統ある福井工業高等専門学校教育後援会会長は身に余る大役ではありますが、責務を全うすべく、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様どうかよろしく願い申し上げます。

近年、SDGsという言葉をよく聞きますが、皆さんご存知でしょうか。「Sustainable Development Goals」の頭文字をとり、持続可能な開発目標を意味しているそうです。この「持続可能な」というのは、今だけでなく、将来にわたって地球環境を失うことなく維持しつづけていくこと。SDGsは「将来の世代のための環境や資源を壊さず、今の生活をより良い状態にするための目標」となります。この目標を実現するためには、国や企業などのリーダーが協力して行動していくことが大切ですが、私たち一人ひとりの意識や行動も重要となるそうです。福井工業高等専門学校学の理念・教育目標の一つにも掲げている項目に該当する部分があると思われます。よって学生達も

これからの地球の環境のためにも一人ひとりが意識を持って行動をしてくれる事と想っているところです。

一方、コロナウィルス感染拡大がまだ収まらず、日常生活にも大きな影響が出ております。皆様も感染拡大を抑えるために日々努力を重ねられているものとお察し申し上げます。親自身が家族を守るために感染しないよう注意を払っておりますが、コロナに慣れてきており意識が低くなりがちになっております。学生たちにもこれからも三密を避け、マスク着用、手洗い等が続けていけるよう努めたいところです。日々心配は尽きませんが、出来ることをひとつずつでも続けていくしかないと思っております。一日も早く人類がコロナウィルスに打ち勝ち、学生たちが元気に昔のような生活が送れるよう、保護者、教職員一丸となって、この大きな局面を乗り切りたいものです。

今年度も各種行事の日程や内容の変更があるかと思いますが、教育後援会としても少しでも学生の皆様のサポートが出来るよう、学校と相談をしつつ柔軟に対応していきたいと考えております。教育後援会会員の皆様には引き続きご理解、ご支援の程よろしく願い申し上げます。

Special Interview

～はじめに～

「模倣」の先にある「創造」

1年担任 池田 彩音

私は平安時代後期に作られた『夜の寝覚』という物語を研究対象としています。福井にも縁のある紫式部が『源氏物語』を書いたのは平安時代中期で、それよりも少し後に書かれたお話です。『夜の寝覚』を読んでいると、ここは『源氏物語』のあの場面っぽい、この登場人物は『源氏物語』のあの人に似ている、という部分がいくつか見つかります。これに対して「『源氏物語』の模倣だ」と酷評された時代もありました。しかし近年では、『源氏物語』を踏まえていることは、当時の読者にはむしろ歓迎されたのではないか、という視点から評価が見直されています。また、よく読んでみると単に似ているだけでは終わらずに、『源氏物語』では書かれなかったような話を書いているという創造的な面も見えます。

ところで、本校の教育理念にある養成すべき人材像として、「幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者(創造性)」というものが掲げられています。何かを「創造」していくうえで、既存の知識や技術を使うことがその基盤となります。とすると、学生の皆さんが創造性を養っていくためには、見様見真似でもやってみる、ということが必要なのではないでしょうか。評価物に剽窃があっては困りますが、「模倣」から生まれるものは捨てたものではないと思います。

夫子は温良恭儉讓、以て之を得たり

2年担任 門屋 飛央

表題は、『論語』巻第一学而にある一節です。孔子はどこの国に行っても、特に官職を求めなくても、指導者として迎えられています。その理由について門人の子禽が、同じく門人の子貢に尋ねます。そこで、子貢は表題のことばで答えます。孔子は温(穏やかである)、良(素直である)、恭(礼儀正しい)、儉(慎ましい)、讓(人を先に立て

る)という五徳を持つために、その地位を得ているというのです。

孔子は、学問において卓越した能力を持っています。しかし、世の中で活躍するために大切なのは、そこではないということです。この五徳は、時間をかけて成熟させていくものでしょう。皆さんには学校生活を通して、これらを伸ばしてほしいと思います。

僕は大学院生のころ、指導教員の先生と毎週ソフトボールをして遊んでいました。そして、本校でソフトボール部顧問を務めています。今になって思うと、当時の経験が今に活かされていると思うことが多々あります。皆さんは今、日々忙しく、また悩みも多いと思います。その経験はきっと皆さんを大きく成長させてくれています。ぜひ五徳を大切に、自分だけの学びを続けてください。焦らず、腐らず続けていれば、きっと実を結びます。頑張りましょう。

プラス思考と対応力

3年担任 西 仁司

3年生の皆さん、高専生活楽しんでますか?保護者や学校の理解のもと、今年は自主研修も含めた研修旅行が計画されています。無事実施され、3年生の皆さんにとって実り多きものとなることを、心から祈っています。

入学してから半年間のリモート授業を経験した皆さんですが、今年も大雨の影響で前期期末試験が延期されるなど、予想しないことに戸惑い、不満を募らせている人も多いかもしれません。しかし見方を変えれば、否応なく「対応力」が求められ、それが身についたともいえるでしょう。最初の授業が遠隔授業だった皆さんは、その良さに一番気が付いているということもできます。3Mと3E、3Bでは今年からBYODが始まりました。先生方も様々な教材を用意していますので、それらの長所・短所を見分けて、より効果的な勉強方法を見つけ出しましょう。

令和5年度から、企業がインターンシップで得た情報をその次の年度の採用活動に活用できるようになります。こ

Special Interview

～はじめに～

れは、就職活動・採用活動のあり方の大きな転換になるでしょう。ここでも皆さんの「対応力」を活かし、各自の目指す進路に進めるよう、早め早めの情報収集を行ってください。

感染症や自然災害だけでなく、様々な社会情勢によって、これからの私たちの生活環境は目まぐるしく変わります。それらを前向きにとらえ、変化できる「対応力」を身に付けましょう。

立派な“節”を作るために

4年担任 坂元 知里

竹は、植物の中でも少し変わった特徴があります。通常植物は、先端部分に“成長点”といわれる箇所があります。その成長点を起点として植物は成長していきます。しかし竹は、先端部分だけでなくその途中途中にある節にも成長点を持ちます。竹は、先端部分とそれぞれの節から成長するため、急速に背を伸ばします。またこの節は、根に溜めこんだ“栄養”を一気に使い、硬くかつ成長点を形成します。この節により、竹は大風が吹いてもしなやかに揺れ、折れることはありません。

私は幼少の頃、父から以下のように教えられました。

「人生節有 節有則伸。人の自身に与えられたあらゆる事柄は、真摯に取り組みなさい。全ての事が自身の節を作る“栄養”となる。“栄養”を溜めなさい。竹も長い時間をかけて根に“栄養”を貯める。時間がある若人のうちに、しっかりゆっくり“栄養”を溜め、立派な節を作りなさい。さすれば、きっと将来大風が自分に吹いてきても、簡単には折れないはずだ」。

4年生の皆さんは今、インターンシップを始め、あらゆるイベントを経験している最中です。もちろんそれみなさんの節を作るための“栄養”となっています。しかし、日々の清掃、授業態度、周りの人に対する行動なども確実にみなさんの“栄養”として蓄積されます。いっぱい“栄養”を溜めましょう。そして成長点をたっぶり含んだ節を作りましょう。竹のように一気に成長しましょう。大風が向

かってきてもしなやかに受け流せる強さを築けるよう。

学年担任から

5年担任 秋山 肇

例年以上に暑かった今年の夏も台風一過でようやく涼しさを感じるようになりました。5年生の学生諸君においては進学・就職に目途が立ち、卒業を意識して卒研への取り組みを本格化し始める時期を迎えつつあるのではないのでしょうか。思えば、昨年度の年度初めから胎動したインターンシップ活動への申請を皮切りとして集中的に密度の濃いイベントが目白押しであったように感じます。

私はこれら一連の出来事を振り返ると「線状降水帯」のイメージが重なります。豪雨は避けられればそれに越したことはありませんが、卒業後の進路に関しては各々が乗り越えるべきターゲットを設定して取り組む必要があります。逃げようがありませんね。クラス担任とキャリア支援室は気象庁と地方自治体の役割を背負って奮闘しましたが、十分ではない点があったかもしれません。青武台だよりの読者各位から今後に向けてご要望があればお届け頂きたいと思います。

産業界が高専卒業生の活躍に期待する声は年々大きくなりつつあります。企業情報のオンライン化も進み、コロナ禍であっても学生諸君が情報を得る点では特段の支障は無かったと聞いております。しかし企業の情報と学生の想いを繋ぐ上での「話し合い」は如何だったでしょうか？来年度の「線状降水帯」が訪れる前に備えるべき問題点を皆様と共有したいと考える今日この頃です。



Special Interview

～第57回体育祭～

第57回体育祭について

学生主事補 松浦 徹

今年度の体育祭は、天候に振り回されました。8月4日から5日にかけての豪雨により、前期期末試験2日目以降が9月末に延期し、9月26日に予定していた体育祭は10月8日土曜日に延期になりました。この延期により、夏休み中に試験勉強をしつつ準備や応援練習をしなければいけなくなり、大変だった人も多かったのではないかと思います。10月7日にはまた大雨が降りグラウンドが濡れてしまったため、さらに一日延期して、予備日の10月9日曜日に第57回体育祭が実施されました。

大会当日も、午後からの天候が悪化する様相であり、午後の部のプログラムを急遽変更して、最終競技であった応援合戦を先に行いました。赤青緑白と順に応援の演舞披露が行われ、最後の黄組の演舞が終わった瞬間にどっと大雨に変わったのが印象的でした。

雨がひどくなったため、それ以降に予定していた大玉送り(新競技)と色別対抗リレーは中止にし、第二体育館で閉会式を行いました。また、当日に撤収作業も行えなかったため、11日の放課後に、実行委員、5年生有志、学生主事補で撤収と原状回復作業を行いました。

新型コロナウイルス対策では、リスクを抑えつつ従来の体育祭に近づけるようにしたいという、極めて判断が難しい問題であったと思います。この問題についても、文部科学省の指針などを参考に実行委員や応援団長が何度も話し合いルールを決め、実行していました。昨年度は実施できなかった保護者の観覧については、事前登録制という制限をつけることになりましたが、日曜開催ということもあり多くの観覧者に来訪いただきました。

このように様々な困難に直面した今年度の体育祭でしたが、記憶に残る良い体育祭になったのではないかと思います。

体育祭について

体育祭実行委員長 環境都市工学科4年 佐々木 飛翔

今年度の体育祭も引き続き、コロナ禍での開催となりました。昨年度の反省とたくさんの意見より、今年度の体育祭は保護者を含めた外部の方々の入場を認めることになりました。年月が経つにつれて、例年に近い形での開催になりつつあることにとてもうれしく思います。

今年度の目標は、「例年に近い形での開催」でした。私たちよりも下の学年はコロナ前の体育祭を知らないもので、なるべく今年度で例年に近い形に戻したいという思いで頑張ってきました。

競技面では、種目を二つ追加しました。コロナ前は午後も多く競技を行っていたため、なるべく接触が少なそうな競技を増やそうと考えました。3年生競技に「タイヤ引き」を追加し、ルールからコロナ対策、形式までを半年かけて作り直しました。これには、競技長の実行委員とたくさん話し合い、考え、実現できました。

応援団の面では、コロナ禍によりできなかった「声出し」を解禁しました。「声出し」をやりたいという応援団からの強い志望より、学生主事団の先生方と応援長と話し合い、しっかりとしたルールのもと実現できました。

このように、体育祭は多くの方々の協力のもと開催できました。私自身かなり未熟で、多くの方々にご迷惑とご不便をかけたと思います。しかし、一つの行事をみんなで運営していくことの大変さをよく理解できました。最後になりますが、体育祭を開催するために協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。



Special Interview

～第57回体育祭～

体育祭に参加して

電気電子工学科3年 島田 泰希

今年の体育祭は1日順延となったため、体育祭当日も天候とグラウンド状態が心配されましたが無事に開催されました。また、去年と同様にコロナ禍での開催となりましたが昨年よりも制限が緩和されたため、存分に楽しみました。私は、応援合戦と3年生の競技であるタイヤ引きに参加しました。タイヤ引きではクラスメートが全力でプレーしていて、いつもと違う熱い様子が見ることができました。また、この競技は観戦していてもとても盛り上がりました。去年の学年種目はあまり面白くなく、今年もあまり期待していませんでしたがタイヤ引きは面白かったので来年もこの競技を続けて欲しいと思います。

次に、応援合戦についてですが私は初めて応援団に入りました。私たちの組はネタ枠ということもあり、私は応援について真剣に考えていませんでした。そのため、私は本番の1週間前までまともに練習に参加していませんでした。本番1週間前に正直やばいなど感じました。また、私は運動が苦手なため、全く振り付けを覚えられずにいましたが先輩方や同じクラスの友人が優しく丁寧に教えてくれたおかげでなんとか振り付けを覚えることができました。振り付けを覚えてないにも関わらず、練習に参加しなかったことを恥ずかしく思っています。応援団のみなさんに迷惑をおかけしましたが、応援団に入ったおかげであまり関わりのなかったクラスメートや先輩方や後輩の面白さと優しさを知って、より交流が深められました。応援合戦での結果は5位でしたが、私たちの組の応援ができたので良かったです。応援団には友達に勧められて入ったのですが、最初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、応援はやってみるととても面白く、入学してから一番の思い出となりました。来年も応援団に入って、自分にとって意義のある体育祭にします。これからもいろいろなことに挑戦して、充実した毎日を送っていきます。

～第57回高専祭～

What is yourself?

学生主事補 古谷 昌大

10月21日から3日間(初日は午後のみ)、第57回高専祭が開催されました。1、2日目は晴れ、3日目は一時小雨がバラつくも、高山唯斗学生会長の気合とフィナーレの大花火が雨雲を追い払い、盛況のうちに全日程を終えました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、入場制限(学生1人につきご家族の方2人まで)やマスク着用の徹底などを行いました。今も昔も学生さん達の熱量は凄まじく、「ブレーキ」と「アクセル」の踏み分けに腐心したとは思いますが、谷口和也実行委員長をはじめとする実行委員会の皆さん、学生会の皆さん、学生スタッフの皆さん、関係の先生方、本当にお疲れ様でした。

少林寺拳法部や吹奏楽部、モダンミュージッククラブ(MMC)がステージ上で躍動しました。一方、茶道同好会のお茶会、書道同好会やサイエンスクラブ、数学科による展示等々が会場の一角(第二体育館)を占め、静の空間を創出しました。

キレッキレのダンスやヲタ芸、高専祭ライブ、ゲーム対戦…筆者は初見でしたが、学生さん達の意外な一面を垣間見ました。カラオケやフィールドミッション、ミニゲーム、ビンゴなど、当日参加型の企画も盛沢山でした。さらに、「男女逆転!?ミスコン・ミスターコン」が行われ、「大変」盛り上がりました。日中は多彩な露店が立ち並び、来場者の胃袋を満たしていました。

今年度の高専祭のテーマは「Be Yourself」。期間中、学生の皆さんは何に心地よさを感じたのでしょうか?心地よさは「Yourself」を深化させるものですが、今回初めて体験した心地よさがあったなら、それは「Yourself」を進化させたでしょう。豊かな人生を送るために、深化と進化、両方大事です。高専祭を含め色々なことを高専生活の中で経験し学んで、素敵な「Yourself」を手に入れてください。

Special Interview

～第57回高専祭～

高専祭を振り返って

高専祭実行委員長

電子情報工学科4年 谷口 和也

高専祭実行委員長になってすぐ、今年の高専祭はどのくらいの規模で開催しようかと悩みました。新型コロナウイルスの影響で一度消えてしまった高専祭。それを“再起動”した昨年からどれだけ大きく出来るのかが今年の問題でした。ゲストを呼ぶのか、ステージを建てるのか…初めはそこそこの大きさにできれば上出来だと考えていましたが、鯖江市からの補助金や学生会長の意向もあり、できる限り盛大な高専祭にしようと決意しました。

実行委員長としての仕事は予想していたよりも大変でした。企画や露店、電源部門など各部門との連絡や質問の返答、テントの場所や展示会場の検討、屋外ステージや会場入り口などでの感染予防策、音響や献血など外部の方との会議、展示希望者への対応やフリースタイルのスケジュール作成、全学生への諸連絡などを行う必要がありました。

予算の確定が遅れたことや、学生主事団の先生方との意見調整、実行委員長の膨大な仕事量により苦しむ日も少なくありませんでした。しかし、最終的には昨年よりも長い3日間開催、屋外ステージの設営、(制限はありましたが)学外の方の来場といったことを実現できました。

至らない点の多い実行委員長でしたが、実行委員や学生会などの皆さんのおかげでなんとか高専祭を成功させることができました。協力してくれた方々には心から感謝しています。



高専祭を実施して

スポンサー部門長兼花火大会責任者

環境都市工学科5年 忠住 純太

今年も多くの企業、OB・OGの皆様にご支援いただき、無事高専祭を開催することが出来ました。また、今年は花火大会の開催に際して、鯖江市からも多大なるご支援をいただきました。コロナ禍で、学校行事が少なくなりました。私たちにとって、高専祭や花火大会はかけがえない思い出となりました。ご支援いただいた皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

私は2年生の時から4年間、実行委員として高専祭に参加してきました。今年は、スポンサー部門長兼花火大会責任者として携わらせていただきました。今年も高専祭の運営を支えることができ、とても嬉しく思います。

スポンサー部門として、高専祭にご支援いただいた方々とのやり取りをする中で、多くの方が高専祭の成功を期待してくれていると感じました。私は、実行委員としてはもちろん、高専生としてとても誇らしく思いました。

最後に、実行委員をはじめ高専祭に関わっていただいた全ての学生の皆様、本当にお疲れ様でした。来年以降の高専祭も楽しみにしています。



Special Interview

～第57回高専祭～

高専祭について

高専祭企画部門長

電気電子工学科3年 星野 侑聖

高専祭企画部門は、高専祭の4か月ほど前から動き始めました。まず、部門員全員で企画の案を出し、そこから絞られたのが『男女逆転!?ミスコン・ミスターコン』、『カラオケ大会』、『ミッション』、『缶倒し』の4つでした。そこから、企画の内容、ルール等を全員で決めていき、進めていきました。企画内容を考えていると、みんなから「ここはどうするの?」、「これも必要じゃない?」などたくさん意見が出ました。企画部門では、全員が積極的に案を出し、取り組んだおかげで隅々まで考えて計画していくことができました。全員が動いてくれたおかげで企画部門はうまくいったと思います。これが、もし自分1人で進めるとなっても到底できないし、上手くいかないなと強く思いました。

僕は、企画部門長として実行委員長や主事団の先生方に準備の進み具合なども話しながら進めていました。全校学生に連絡するときの文章を確認してもらったり、感染症対策として足りないことはないかチェックをもらったりしました。そこでもやはり、自分1人では気づかないことを発見できました。

僕は、高専祭企画部門長の経験を通して、何かをするときは話し合いを十分に行い、常に情報を共有しながら進めていくことが大切になると思いました。ただ、僕は今回の高専祭当日に体調を盛大に崩し、1日も参加することができなかつたので悔しかったです。僕がいなくても企画をうまく回してくれた部門員にはとても感謝しています。これも情報をしっかり共有していたことが良かったのだと思いました。

高専祭について

高専祭露店部門長

電気電子工学科3年 坂下 晴花

私が1年生の時は、コロナ禍の影響で高専祭や体育祭などの学校行事が全く分からないままでした。2年生の時の初めての高専祭は、とても楽しみな気持ちで迎えました。先輩や友達に誘われて入った露店部門。ちょうど去年の今頃に「来年露店部門長する!」と言ったことを覚えています。

今年は昨年に比べて露店数が増え、野外ステージや外部の方の招待など、コロナ禍前の高専祭に近いものでした。私はコロナ禍での高専祭しか知らないのも、不安と期待でいっぱいでした。部門員は全員で18人、仕事ができる優しいメンバーに恵まれて、露店で大きな問題が起これずに無事に高専祭が終わりました。私自身、露店長としても、1人の学生としても、とても楽しい高専祭になって良かったです。

高専に入って初めて人の前に立ち、指示を出す出来事だったのでとても緊張していましたが、先輩や先生に支えられて露店長としての仕事をやりきれたと思っています。高専祭当日は各露店の学生さんが優しく接してくれて、私達露店部門も安心して見回りやチェックを行えました。

私についてくれた部門員や、主事団の先生方、露店を出してくれた学生さん達にとっても感謝しています。高専祭から、人に頼る事、みんなと協力し合う事の大切さを再確認しました。

来年は運営側に関わることがないかもしれませんが、来年の高専祭も、その次の高専祭も楽しい思い出になるようにしたいです。

本当に楽しかったです!ありがとうございました!



～第57回高専祭～



高専祭の
思い出



Special Interview

～活躍する仲間～

令和4年度 教育後援会研究奨励一覧

申請者	研究題目	指導教員	交付金額(円)
環境都市工学科4年 野々垣修慶	日本建築学会情報シンポジウム2022 砂坊堰堤の建造年数と確率降水量を用いた流出解析に関する研究	野々村善民	103,000
環境都市工学科4年 窪田多久見	全国高専デザインコンペティション 高専デザコン創造部門に出場する作品制作の取り組み	大和 裕也	90,000
環境都市工学科5年 田中こころ	全国高専デザインコンペティション 紙を用いた橋梁模型の製作	吉田 雅穂	100,000
環境システム工学専攻1年 千京 律斗	セルソーターを利用したバイオ医薬品たんぱく質の探索	松野 敏英	133,155
機械工学科3年 中川 翔心	高専ロボコン2022に出場するロボット(Aチーム) 「ロボ米∞」の製作	千徳 英介	150,000
機械工学科4年 廣田 成史	高専ロボコン2022に出場するロボット(Bチーム) 「シン・ロボティタン」の制作	伊勢 大成	150,000
		合計	726,155

令和3年度 教育後援会奨励研究概要報告

デザコンに参加して

電気電子工学科3年 駒野 真琴

私たちは、デザコン2021in呉での構造デザイン部門に参加しました。

今回の競技内容は、50kgの载荷に耐え、かつ5kgの砲丸を流せる強度の橋梁模型を紙でいかに軽く作るかを競いました。私たちのチームは2年生が中心でみんなで話し合いながら色々な工夫を盛り込んでいきました。ひたすら紙で棒を作り続けると言った地味な作業もありました。結果として、16/36位でしたが、とてもいい経験になりました。来年はもっといい成績を残せるように頑張ります。

ご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

設計コンペと研究発表の両立

環境都市工学科4年 後藤 和瑚

今回の研究奨励金で実施した活動は、複数の住宅コンペへの参加と日本建築学会全国大会における研究発表です。2021年度の大きな成果は、第1回近畿学生住宅大賞において関西電力株

式会社様から企業賞を頂き、一部を研究成果としてまとめて、「都市洪水の対策技術に関する研究」を発表しました。

コンペ作品の制作を通じて、私は様々な技術的な課題を見付けました。今後、見付けた課題を一つずつ解決するために、私は流体数値シミュレーションを修得します。また、私は様々な解析結果を日本建築学会で発表することを目標とします。

建築学会 情報シンポジウム2021に挑戦

環境都市工学科4年 野々垣 修慶

今回の研究奨励金によって得た成果は日本建築学会の情報シンポジウム2021において研究発表に参加したことです。発表した研究題目は、「写真測量を用いた建築物の3Dモデルの再現方法に関する研究(その1)」です。発表時には、専門的な内容についての質問があり、無事に対応できたことが大きな自信となりました。

この研究発表を通じて、市販されているデジタルカメラを用いて複雑な形状の建築物および地形の起伏などが3Dモデルとして再現できることがわかりました。今後、高専で得た専門知識を活かして、私は研究活動に取り組みます。

Special Interview

～活躍する仲間～

F2クラス全員で取り組む スーパーボールの跳躍力に関する研究

環境都市工学科2年 武田 輝良

僕達は特別活動の時間を利用し、スーパーボールの跳躍力を伸ばす方法について研究しました。スーパーボールの構成成分や分子構造について、担任補佐で指導教員の古谷昌大先生にアドバイスを頂きながら、約1年かけて実験しました。最後にその成果をクラス外の人達に向けて発表しました。今回得た経験は、5年次の卒業研究や、今後の学校生活で必ず役立つと思います。物事について深く知り現象を理解する。『知る』ではなく『識る』を心掛けて、僕達は技術者の卵として様々な視点から物事を考え、これからも頑張っていきたいです。

活動内容報告

機械工学科5年 福谷 和信

HONDAが主催する、エコマイレージチャレンジに出場するため、私たちは車両を製作しました。エコマイレージチャレンジとは、自作の車両にバイクのエンジンを載せてサーキットを走り、速さではなく燃費を競い合う大会です。2021年度は、運搬のために車体の分割機構の製作、ステアリングの調整などを行いました。そして、9月にはエコマラソン長野2021に出場し、結果を残すことができました。初めての大会でしたが、無事完走することができてよかったです。来年度はもっと燃費を向上できるような日々改良を続けていきたいと考えています。

高専ロボコン2021に関して

電子情報工学科4年 武藤 青以

私たちBチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技テーマは、「超絶機巧(すごロボ)」、みんなを驚かせるすごい技のロボットを作りパフォーマンスをするものでした。私たちが製作したロボットは、操縦者の腕に取り付けてある、操作用のアームを動かすと、連動してロボットのアームも動くというものです。このロボットでジェンガのように設置したブロックをうまく引き抜くパフォーマンスを目指しました。

今回は、動作がうまくいかずに決勝を逃してしまいましたが、操縦者とロボットの動きを連動させるという新しいことに挑戦して、経験を積むことができたのはとても大きいと思います。今年のロボコンも頑張っていくので応援よろしくお願いします。

高専ロボコン2021に関して

機械工学科4年 吉野 晃

私たちAチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021」に出場するためのロボットを製作しました。2021年度のテーマである「超絶機巧(すごロボ)」は2020年度に引き続きオンラインでの開催で、各高専が考えた凄い技を披露するというものでした。

Aチームのテーマは「流鏑馬」ということで的を目掛けて矢を放つ射手ロボットと、射手ロボットを牽引する馬ロボットの2台の自動ロボットでパフォーマンスを行いました。この2台のロボットの魅力は、的がどこにあるともその位置を特定し、矢を放つタイミングを合わせることができる所です。

地区大会本番では、調整が足りず的に矢を命中させることができませんでしたが、ロボットを完成させ、本番で動かすことができたのは良かったと思います。2022年度のロボコンでも福井高専ロボット部は頑張っていくので、応援の程よろしくお願いします。



Special Interview

～活躍する仲間～

各種大会等に参加して

全国高専体育大会陸上競技に参加して

機械工学科2年 笠原 彰紘

私は8月20～21日に開催された全国高専体育大会の陸上競技、男子走高跳で自己ベストを更新する1m96cmの記録で優勝することができました。全国高専体育大会で優勝するという目標は私が1年生の時から抱いていたのですが、コロナの影響で去年の大会には出場できず、その年は諦めざるをえませんでした。しかし、今年は念願の優勝を果たし、並々な達成感で今なお感情が高ぶっています。

この快挙は周りの支えがあったからこそです。高跳マットを買っていただいたことや、私のためにサポートしてくれた陸上部の仲間のお陰です。そして何より、陸上競技場の整備や、時に厳しく、また、時に優しく指導して下さった顧問の東先生には感謝してもしきれません。これらの支えを無駄にせぬよう、全国高専陸上大会で連覇することや自己ベスト記録の更新に向けて、私自身より一層、気を引き締めていきたいと思います。



「目的」と「目標」

環境都市工学科5年 長田 大成

今大会で最も心に残っていることは、準決勝で負けたあと、5年生だけでなく4年生以下の選手たちも涙を流していたことです。みんながなぜ高専に入学したのか、なぜ高専でサッカーをしているのか本質の部分はわかりません。「目的」は人それぞれであり、どれがいいというものでもなく、ましてや強制できるものでもありません。私はこの高専サッカー部に集まったいろんな人たちが同じ方向を向くのは難しいだろうと思っていました。しかし、全国大会では、学年問わず選手全員が目の前の試合に勝ちたいという思いを持ち、同じ「目標」を持って全力で戦っていたような気がします。「目標」は「目的」をも超えて一つにする力がある

のだと、涙を流している選手を見て思いました。全国大会があったからこそ、高専という場所でサッカーをやってきたからこそ、私は貴重な経験ができました。



全国高専大会初優勝までの道のりと感動

物質工学科4年 大西 ほの香

私たち女子バドミントン部は香川県丸亀市で開催された全国高専大会で優勝しました。昨年初めて全国高専大会に出場し、メダル獲得を目指していましたが、二連覇中の熊本高専に負け、非常に悔しい思いをしました。今年こそ優勝しようとチームの皆が毎週の練習に励みました。顧問の山脇先生も気合を入れており、昨年以上につらい練習でした。

熊本高専とは二回戦目で対戦しました。昨年と同様の展開になり「負け」が頭をよぎりましたが、日々の練習の成果を発揮でき勝利できました。決勝戦では昨年準優勝の有明高専と対戦し、優勝できるかもと人生で一番緊張しました。私は緊張に弱く、1セット目は弱気になり落としてしまいました。しかしペアの田嶋さんが励ましてくれて、調子を取り戻すことができました。後輩たちも一生懸命応援してくれて、主将として負けられない気持ちでした。優勝の瞬間、みんなでハイタッチでき、金メダルをかけたときは感動しました。また、個人戦では笠松さんが二年連続の銅メダル、ダブルスでも笠松・細井さんペアが銅メダルを獲得しました。

来年は福井開催なのでまた初心に戻って頑張りたいです。



Special Interview

～活躍する仲間～

全国という舞台上

機械工学科4年 岩田 純弥

私たち水泳部は、愛媛県で行われた第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技において、総合3位、メドレーリレー優勝と素晴らしい成績を収めることができました。

個人競技では、100メートル自由形、100メートル平泳ぎで優勝し、リレーでも、メドレーリレー準優勝と、全国の水泳部では部員が多い方ではないなか、全員が素晴らしいパフォーマンスを見せて総合3位に貢献しました。

特に優勝したメドレーリレーでは、最後の最後まで結果の見えない熱い勝負で、見事優勝することができました。一番手は最下位でスタートし徐々に追上げて3番手で1位になって、そのまま逃げ切るといった形になりました。ゴールは体半分の差もなく、個人的には水泳人生で最も興奮したレースになったと感じます。

これまで関わっていただいた先生方、先輩方、後輩のみんな本当にありがとうございました。

素晴らしい水泳人生でした。



全国アマチュア無線コンテストに参加して

電気電子工学科1年(F1) 常川 翔太

私は今年の7月、第33回全国高校アマチュア無線コンテストに参加しました。事前に先生や先輩方から説明を受け、その大会用の対策プリントをもらっていましたが、初めてのコンテストということでとても緊張しました。これまでこのコンテストで福井高専は4連覇を成し遂げており、自分が原因でこの連覇が止まったらどうしようという不安がありました。

しかし、いざ参加してみると、コンテストでの交信の手順は普段の活動時とよく似ていたため落ち着いて対応できました。先生や先輩方の応援も心強く、予想のほか多くの相手局と交信し

ましたが、緊張もすぐにほぐれ、終始リラックスしてコンテストを全うすることができました。

結果はマルチオペレーター7MHz部門で優勝、5連覇を達成し、新聞にも取り上げられとてもうれしく思います。この経験を糧にモールス通信などのアマチュア無線の技術を高めていきたいと思っています。



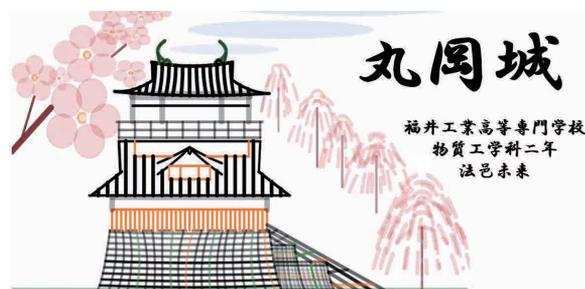
全国関数グラフアートコンテスト最優秀賞!

物質工学科2年 法邑 未来

私は、第13回関数グラフカンファレンスで最優秀賞を受賞することができました。これは、様々な関数グラフを組み合わせるアートを作るコンテストです。発表では、自分が描いた関数グラフアートを説明することに精一杯でしたが、先輩方の説得力のある堂々とした発表を目の当たりにし、プレゼンテーション力の大切さを感じました。

私の作品は、330式の関数グラフを用いて戦国時代の曲線と直線の美しさを表現した丸岡城です。作成時期が1年生の夏でまだ基本的な関数しか知らない中でしたが個々の特徴を最大限に生かして頑張りました。

この度、最優秀賞が受賞できたのは、井之上先生、坪川先生、山田先生、そして先輩方の親切で丁寧なアドバイスのおかげだと思います。今回の経験と自信と喜びをこれからの学校生活にも生かしていきたいです。本当にありがとうございました。



Special Interview

～学校通信～

令和4年度第1回 学生表彰受賞者一覧

校長特別賞

第56回全国高等専門学校体育大会(個人)

水泳部(男子100m自由形1位)	電気電子工学科2年	谷口 柁弥	大会新記録
水泳部(男子100m平泳ぎ2位)	環境都市工学科3年	佐々木 俊亮	

第127回技術英語能力検定3級

文部科学大臣賞	電子情報工学科3年	中尾 悠
---------	-----------	------

第32回全国高等学校アマチュア無線コンテスト高校マルチオペレータ 7MHz部門・優勝(団体)

アマチュア無線研究会

校長賞

4年間(4回)学業成績優秀者

物質工学科5年	伊部 実由布
---------	--------

第56回全国高等専門学校体育大会(個人)

バドミントン部(女子シングルス3位)	物質工学科3年	笠松 青夏
--------------------	---------	-------

第56回全国高等専門学校体育大会(団体)

ハンドボール部

第2回インフラマネジメントテクノロジーコンテスト地域賞受賞

環境都市工学科4年	寺前 海斗	環境都市工学科4年	野々垣 修慶
-----------	-------	-----------	--------



奨励賞

1年間学業成績優秀者

機械工学科5年	尾形 勇樹	物質工学科5年	幡生 来実	物質工学科4年	増田 悠雅	電子情報工学科2年	片岡 志菜
機械工学科5年	谷口 匠	物質工学科5年	増永 絢音	物質工学科4年	松井 実玖	電子情報工学科2年	西浦 祐生
機械工学科5年	出嶋 海里	物質工学科5年	MASHBAT MANDUKHAI	物質工学科4年	三池 遼香	電子情報工学科2年	水野 弘汰
機械工学科5年	福谷 和信	環境都市工学科5年	有城 健祥	環境都市工学科4年	青木 翔佐	物質工学科2年	音 羽矢可
機械工学科5年	山本 倫聖	環境都市工学科5年	石原 しいな	環境都市工学科4年	窪田 多久見	物質工学科2年	糸谷 聡子
電子情報工学科5年	小川 大翔	環境都市工学科5年	大久保 誓也	環境都市工学科4年	佐々木 飛翔	物質工学科2年	建石 大和
電子情報工学科5年	村中 冬和	環境都市工学科5年	大谷 悠莉	環境都市工学科4年	清水 京侍	物質工学科2年	丹羽 大和
電子情報工学科5年	森下 航聖	環境都市工学科5年	下村 成輝	環境都市工学科4年	仲下 慶	物質工学科2年	藤田 耕輔
電子情報工学科5年	林 明香里	環境都市工学科5年	田中 ころこ	環境都市工学科4年	野々垣 修慶	物質工学科2年	法邑 未来
電子情報工学科5年	吉田 創	機械工学科4年	糟谷 奈穂	環境都市工学科4年	堀江 勇正	環境都市工学科2年	佐々木 清和
電子情報工学科5年	竹島 駿介	機械工学科4年	駒 壮悟	機械工学科3年	嘉村 光月	環境都市工学科2年	田中 結菜
電子情報工学科5年	中野 美々莉	機械工学科4年	廣田 成史	電子情報工学科3年	中尾 悠	環境都市工学科2年	中村 優真
電子情報工学科5年	下牧 利玖	機械工学科4年	横井 春紀	電子情報工学科3年	彦坂 天壘	環境都市工学科2年	野尻 唯奈
電子情報工学科5年	松宮 亘志	物質工学科4年	石森 海嵩	環境都市工学科3年	小林 洸太	環境都市工学科2年	三田村 美菜
電子情報工学科5年	横山 大稀	物質工学科4年	岡田 ひなた	環境都市工学科3年	佐々木 俊亮	環境都市工学科2年	宮下 育三
物質工学科5年	稲荷 凜平	物質工学科4年	窪瀨 陽	環境都市工学科3年	高間 海友	環境都市工学科2年	山崎 更
物質工学科5年	川口 妃菜	物質工学科4年	河野 真琴	環境都市工学科3年	林 智央	環境都市工学科2年	渡邊 駿介
物質工学科5年	鈴木 悠心	物質工学科4年	高山 結華	環境都市工学科3年	保木 克也		
物質工学科5年	中島 芳	物質工学科4年	富原 颯太	電気電子工学科2年	佐原 瑞稀		
物質工学科5年	畑 朋輝	物質工学科4年	蓮見 颯太	電気電子工学科2年	馬淵 晴之		

第12回建築甲子園奨励賞受賞

環境都市工学科4年	笹川 結菜	環境都市工学科4年	橋本 咲楽	環境都市工学科4年	中村 彩乃	環境都市工学科4年	山野 祐鶴
-----------	-------	-----------	-------	-----------	-------	-----------	-------

第1回近畿学生住宅大賞企業賞受賞

環境都市工学科4年	後藤 和瑚
-----------	-------

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2021北陸センター所長賞受賞

環境都市工学科4年	橋本 咲楽
-----------	-------

Special Interview

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が19、文化部が9、同好会が13あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 軟式野球

私たち福井高専軟式野球部は月、火、木曜日の週三日、一生涯懸命部活に取り組んでいます。優しく面白く、しかもイケメンな部員たちでいっぱいです。そんな人たちと楽しく野球がしたい、そんな人にぴったりの部活です。

指導教員 松浦 徹、田安 正茂、坂元 知里



体育部 男子バスケットボール

男子バスケットボール部は、1～4年生で約30名程度が在籍し、高校大会や高専大会に向けた練習を行っています。バスケ部の特徴は、同学年間はもちろん、先輩後輩間でも良いコミュニケーションが取れるところです。

指導教員 松井 一洋、米田 知晃、藤田 卓郎



体育部 女子バスケットボール

私たち女子バスケ部は、みんなで仲良く練習をしています。特に大会前には週に3回ほど練習をしており、大会に備えて練習に励んでいます。選手はもちろんのこと、マネージャーも募集しています！待ってます！

指導教員 後反 克典、坂元 知里



文化部 ロボット

ロボット部は放課後に、高専ロボコンに向けたロボット製作を行っています。ロボット設計や加工、回路設計、プログラミングなど、様々なことを体験できます。ともに楽しんでロボットを作りましょう！

指導教員 亀山 建太郎、千徳 英介、伊勢 大成、村田 知也



同好会 珈琲同好会

珈琲を片手に先生とお話する部活です。不定期で自由に活動しています。講義以外の先生の新たな一面を見つけることが出来ます。繰り返される日常を、色付けたい！深みを出したい！そんな方にオススメです！

指導教員 原口 治



同好会 プログラミング研究会

プログラミング研究会は全国高専プログラミングコンテストをはじめとする、様々なコンテストでの上位入賞を目的として活動しています。競技プログラミングやハッカソンなどの様々なイベントにも参加しています！

指導教員 青藤 徹、村田 知也

その他の部・同好会一覧

体育部門

- 陸上
- 卓球
- ラグビー
- サッカー
- 野球
- 男子バレーボール
- 女子バレーボール
- バドミントン
- テニス
- ソフトテニス
- 剣道
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道

文化部門

- 英語
- モダンミュージック
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- アマチュア無線研究会
- 放送・メディア研究会
- 空間デザイン
- 建築構造デザイン

同好会

- 天文
- 茶道
- 日本現代視覚文化
- サイエンスクラブ
- フットサル
- ダンス
- 音鍵研究会
- スポーツクライミング
- グラフ電卓研究会
- 書道
- セバタクロール

Special Interview

～学校通信～

本校に着任して



難しい=面白い

一般科目教室 土田 怜

「難しいから面白くない」。学生のみなさんからよく聞く言葉です。とくに物理の話をしているときに聞こえてくる言葉ですが、物理に関してなら前半は私も同意です。物理は難しいです。私は物理の教員ですが、物理を簡単と思ったことはありません。学べば学ぶほど知らない問題に出会います。そしてそれらの問題はたいてい難しく、解くのは大変です。しかしそれでも、「物理が面白くない」という点はあまり同意しません。問題が難しい分だけ、解けた時に達成感が得られるように思うからです。そのとき「物理って面白い」と感じることが出来ます。こういう経験を何度か重ねると、簡単なことはむしろつまらないと思ったり、「難しいほど面白い」と感じたりする機会が多くなります。

物理の話ではあまりピンと来ない人もいるかもしれません。そういう場合は、例えば部活動に話を置きかえてみましょう。できることが当たり前のプレーをしてもつまらないと感じることはありませんか？もちろん、できることを当たり前にするのはとても大事なことですし、それができれば面白いと感じることはあるでしょう。しかしギリギリのところまで成功したときに感じる面白さや喜び、達成感はいくらでも大きいです。

学生の皆さんには、物理や部活動に限らず、いまの自分にとって難しいと思える課題にこそ挑戦し、「難しいから面白い」と言えるものを見つけてほしいと思います。そうやって努力を重ねるみなさんと一緒に、私も成長していければと思っています。



私と高専への着任について

一般科目教室 古谷 峻熙

令和4年度4月より福井高専の一般科目教室に着任させて頂きました。授業は化学・生物、部活では主にバドミントン部の顧問を担当しております。研究においては、光化学について研究しており、今後それに関する教育教材の開発を目指しております。

現在、高専に勤めていることは自分でも予想だにしていまませんでした。私の今までの経験が目一杯活かしている高専や周りの方々に大変感謝しております。

前職では、自動車関係の会社に務めており、教育機関に所属するのは初めてとなります。これまで、大学では学部で電気・電子工学科、大学院で生物応用化学専攻に所属し、社会人では、化成品やシミュレーション技術の開発をしてきました。そんな中、今までの経歴とは全く違う高専で、授業や研究をしています。特に、私の出身地である滋賀県には高専がなく、大学で県外に出るまで高専のことをあまり知らなかったこともあり、自分でも現在、高専に務めていることに驚いております。

着任するまでは、高専の雰囲気を全く分からないので、不安もありました。しかし、高専生は明るくあいさつをよくしてくれて、毎日元気をたくさんもらうことができ、不安もどんどん小さくなっていきました。また、未来のエンジニアを育てる高専では、電気や化学、工業など様々なことに携わってきた私の経験が、教育に活かせる場面も多く、充実した日々を過ごしています。今後も、授業、部活、研究などの場面で少しでも学生や高専、社会に貢献出来るよう努めて参りたいと思います。



違いを楽しもう

総務課長 大野 速太

「うわっ、近いっ！」

業務引継ぎで初めて福井高専を訪問した時の第一印象です。周囲を山々に囲まれ、それらが眼前に迫る風景はこれまで経験したことのない環境。3月まで住んでいたいわき市小名浜はアパートから海までわずか700メートルという立地だったことも相まって、始めはそのギャップに戸惑いましたが、住み始めると意外とすぐに慣れました(笑)

ということではじめまして、総務課長の速太です。出身は大阪府豊中市です。これまで太平洋側を転々としてきましたので、実は人生初の日本海側ということになりますが、気候や文化、そしてご当地の味覚も、今までとは違ったものが楽しめる!とむしろ期待しています。

そんな楽しむ余裕を持ちながら、しっかりと業務に取り組んでいきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

Special Interview

～学校通信～



辞書紹介と、自己紹介

学生課長 石山 隆三

福井大学から異動になりました。以下独り言と少しだけ自己紹介です。簡単な説明ほど難しく、「左」の定義について、学習参考書老舗O社は「南を向いたときの東」と言い、英和辞典で儲けたであろうT書店の鏡は「心臓がある方」と言う。心臓があるか

どうかは体を裂いてみないとわからないという御仁を意識してか、ユニークさで鳴る辞書は「心臓の拍動を感じる方。アナログ時計の7から11がある方」と意外や真面目におっしゃる。岩並に固い出版社は「この辞書の奇数頁の方」だと胸を張り、小学生のときお世話になった会社は今年改訂した最新版の辞書で「箸を持たない手の方」と説明する。箸イコール「右」、ということか。ほ～、でもねCMで美味しそうに食べていた国分太一、稲垣吾郎、小池栄子、小栗旬、二宮和也氏ら、いずれも箸、「左」なんですけど。かくいう私は、もちろん「左」です。(各辞書の語釈については要約しておりますので、実物をご確認ください。一部旧版が含まれています。)

研究室紹介 (FUKUI-KOSEN Labo・Profile)

Profile-01 古谷(昌) 研究室 (物質工学科)

福井高専では、一体誰がどんな研究をしているのかーそんなモヤモヤを晴らすべく、研究室を主宰する先生方にインタビューします!

Q1. 何の研究をしていますか?

大きく分けて2つ。1つは接着剤です。強くくっ付いた後にまたはがせたり、本来くっ付かない物どうしをくっ付けたり…『未来の』接着剤を開発中です。もう1つは、プラごみです。捨てられたプラ製品が、どのようにマイクロプラスチック化していくのか調べています。どちらも「高分子」の研究です。「高分子」は中学校で学ぶ「分子」の延長線上にある物質です。

Q2. どのような方法・環境で研究していますか?

物どうしの隙間で分子をつなげ高分子にすることで固めるーこれが接着の仕組みです。元となる分子は自分達で作ります。それらの分子の形と、できた接着剤の強さの関係を調べます。一方プラごみは、フィールドワークで集めます。回収物の強度と化学的な性質を測定し、関係があるか調べます。研究室には本科5年生の学生が4名おり、1人1テーマでコツコツ研究しています。

Q3. その研究の面白いところは?

接着剤の研究は、ミクロな分子の形の違いが接着力の違いとして表れるところが面白いです。プラごみの研究は、身近な日用品の科学的な側面に触れるところが面白いです。学生さん達と一緒にそれらの面白さをどんどん共有していきたいです。

(2022年9月)

古谷昌大 准教授…2020年4月に着任。前職は東京理科大学講師。専門は有機材料化学、高分子化学。趣味は散歩、(マンガも含む)読書。



令和4年度学校行事写真



新入生オリエンテーション研修



第1回学生表彰



いじめに関する講演会



球技大会



舞鶴高専との交歓試合(ソフトテニス)



舞鶴高専との交歓試合(男子バレー)



北陸地区高専体育大会



ひまわり教室



全国高専体育大会(剣道)



全国高専体育大会(卓球)



全国高専体育大会(ハンドボール)



クリーン大作戦



プロコン



東海北陸地区ロボコン①



東海北陸地区ロボコン②

編集後記

本号では、体育祭・高専祭の実行委員のインタビューに加え、高専祭各部門長のインタビューが掲載されています。なかなか表に出ることが無い各部門の苦労話(?)をお楽しみください。また、新しく研究室紹介のコーナーを設けました。第一号は物質工学科の古谷昌大先生です。研究内容についてわかりやすく紹介されています。研究室紹介は今後連載予定ですので、卒業研究の研究室選びの参考にして下さい。(松浦)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日:令和4年11月30日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下町
TEL:0778-62-1111